

医療の現場で一翼を担う パークゴルフ効果

医療法人盟侑会 島松病院
介護老人保健施設「アトライフ恵庭」事務長 武田 豊美さん (C)2001
「I P G A NEWS」No.31 (2001.2 (NPO)国際パークゴルフ協会発行)に掲載

病院に手造りの パークゴルフ場



病院内で大会開催。和気あいあい
と楽しむ姿がみられる。

病院の敷地内にパークゴルフ場を造ってから、今年で7年目を迎えます。

コース造りを手掛けた頃は、病院の所在する恵庭市では、まだパークゴルフ場が設置されておらず、現在のように手軽に楽しめる環境には無かった頃だと思います。

治療の一つとして行われる精神科作業療法の中で、花壇や小農園を作る園芸作業を行いながら、「憩いの場として芝生があってもいいね」の患者さんの一言から、雑草地を毎日鍬で耕し、芝生の種を蒔く作業が数ヶ月間に渡って行われました。

その作業の結果が実り、翌年には雑草混じりながら、病院の回り一面には緑の絨毯が完成したのです。

一昨年逝去した横濱前理事長が、その時、患者さんにゴルフの打ちっ放しでもさせてあげたいねと話が出た時に思い浮かんだのがパークゴルフでした。

以前、函館市で開催された全国レクリエーション大会の会場前庭で、幕別町から普及に来られていたパークゴルフを初めて紹介していただき、ゴルフが下手な私でも、これはいけるかなと自分なりに納得していたことを思い出したのです。

早速、ピンやカップ等の用具の調達先を幕別町に相談

し、とりあえず9ホール分を準備し、あとはスコップ片手のコース造りで、何とかパークゴルフ場らしきものが完成です。その時、一番喜んだのは患者さんじゃなくて、きっと私だったと思います。

現在は、併設の介護老人保健施設の敷地を含め、コースは短いながらも27ホールになり、昨年芝刈り機を1台増車し、夏場はデスクワークを忘れコース整備に励んでいます。

このように、私達の病院のパークゴルフ場は完成したのですが、当時、クラブも簡単に手に入らなかった頃で、町内会のレクリエーションや、各団体からも利用申込やクラブの貸出し依頼を随分受けたものでした。

治療の一貫としても 導入

病院では、人との交わりが苦手な患者さんの治療の一貫としてパークゴルフを導入したわけですが、故横濱前理事長が先頭になり、プレー前の挨拶から、マナー・ルールの指導をしていたのが思い出されます。

毎年、春秋に開催される院内大会では、ホールインワンが連発するなど、和気あいあいとした雰囲気の中、新鮮な空気を体一杯に吸い込み、心地よい汗を流し、マイペースでプレイしながらもパートナーとの調和を図ることができるようになるなど、パークゴルフは当院での精神科治療の一躍を担っているものと思います。

また、施設の高齢者の中には自分専用のクラブを用意し、お天気の日には、体力に合わせラウンドし、リハビリを行っている方がいらっしゃいます。

地域に解放、 交流の輪ひろがる

去年は、パークゴルフの専門誌や新聞紙上で紹介されたこともあってか、恵庭市内はもとより、札幌市からもプレーにお見えになれる方がいらっしかったです。

なかでも、地元町内のご婦人のグループは午前中の家事を終えてから、毎日のように弁当持参でお見えになり、それがご縁で施設のボランティア活動に今でも参加していただいている方々もいらっします。また、ある日、車椅子の高齢者が息子さんご夫妻に付き沿われ、コースを回るほほえましい姿を見かけました。

パークゴルフが織り成す出会い・ふれあいは、思いやりの心をはぐくむストローク。21世紀を迎えて更に加速する少子高齢化の中、その輪がもっと膨らむことができると素晴らしいですね。

<プロフィール>昭和27年北海道余市町生まれ。京都産業大学卒。登別・北広島市内の病院勤務を経て、59年より島松病院に勤務。平成8年より医療法人盟侑会理事、現職を兼務。現在、精神障害者の社会復帰のための環境づくりと痴呆性高齢者グループホームの設立に向けて取組中。好きな言葉は「不言実行」。
